

# 竹取新聞

株式会社 カグヤ  
東京都新宿区西新宿3-2-11  
新宿三井ビルディング  
2号館10階

第104版

理念と実践で  
絆を結びます

## 成長展

東京都世田谷区の駒沢こ  
だま保育園様の『成長展』に参  
加させて頂きました。

『成長展』とは、1年の間に  
定期的に描いた人物画などを  
段階的に展示したり、保育所  
保育指針の5領域の健康面  
の成長を具体的な事物で表し  
たり、人間関係における発達  
をお友だち・グループの活動  
事例で示したりと、多角的に  
子どもの成長を可視化した行  
事です。

今年のテーマは「仕事」とい  
うことで、保護者向けに「成長  
めいさいしよ」なるものをお配  
りし、子どもの成長を書き込  
めるように工夫されています。  
「成長めいさいしよ」を発  
案した先生にお話を伺って、  
「保護者の方に子どもの成長  
を味わってもらいたいと思い、  
自分が給与明細書を開く時  
のあの喜びを感じられるよう  
に、切り取り線を一つひとつ付

けました!」とお話くださ  
いました。

これまで1階は3歳未満  
児・2階は3歳以上児として  
いた展示から、保護者に他の  
子の発達も見たいと、階  
下をまたがるように展示が工  
夫されていました。展示のゾ  
ーンごとに先生方が説明して  
下さり、その時の子どもの様  
子や子ども同士のやり取りな  
ど、成長のプロセスをお話し  
して頂きました。

将来、子どもたちがどんな  
仕事に就くかは分かりませ  
んが子どもたちに誇れるよう  
な仕事をしていきたいと、『成  
長展』を通じて感じました。



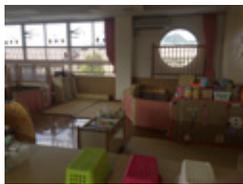
【成長めいさいしよ】  
袋とじの点線にそって端を切り取ると  
子どもたちの成長を書き込めるよう  
になっています。

## 寄り添いのペース

福岡県にある大城保育園  
様に訪問させて頂きました。

「時代が変わり社会が変わり、  
子どもたちのことを考えると  
保育を変えていかなければな  
らない」と思いながら、どう  
進めていけばよいのだろうかと  
園長は悩んだそうです。  
手始めに見守る保育の実践  
園に見学へ行き、それから『保  
育環境セミナー』へ職員と一緒  
に行き、まずは選択制という  
ものについて実践してみよう  
と試してみたところ、職員か  
らは子どもに選択させると  
やっぱりやりきれず熱中す  
る。遊びこむ集中力が付くと  
感じた。「子どもたちにとっ  
て、この保育の方がいいと思  
う」「こんな環境にしてみても  
いいですか?」といった声が出  
てきたそうです。「選択制が  
出来るようにコーナーやゾ  
ーンを作ることで、子どもが走  
り回ることも減り、落ち着い

て遊んでいて、注意をすること  
が減ったのでやり始めてみて  
よかった」そんな声が自然と  
出てくる風通しの良い現場も  
素敵ですが、園長先生からの  
「無理に進めようとするとな  
らぬ」と思うので、ちゃんと  
職員のペースに合わせて、職  
員の声を聴いて進めようと思  
うんです」という言葉からも  
見守りの深さを感じます。  
自分のペースで寄り添うこ  
とと、職員のペースに寄り添  
うということは、寄り添う軸  
足が全く違うのを感じます。  
目指す保育と同じように職員  
へ寄り添う姿は、主体性を育  
む大切な環境なのだと教えて  
頂く機会となりました。



皆で一緒になって子どもたちの  
ために変わり続ける。  
そんな姿は大人のモデルだと  
感じました。

## 一貫した想い

広島県の草戸保育所様で  
園見学をさせて頂いた際、

「ゆきこおばあちゃんのおかげ  
のへや」という、先代の所長の  
奥様の名前がつけられた絵本  
のコーナーが目に残りました。  
所長の辻先生にお聴きす  
ると、次のようなお話を聴か  
せて下さいました。  
この保育所は、先代の所長  
が「地域に密着した園を目指  
して始められたのですが、今  
はこの想いに共感してくださ  
る方も多く、園にある絵本は  
園で用意したもの以外に、地  
域の方や卒園された保護者の  
方からいただいたものも沢山  
あるそうです。そして、その本  
を「貸し出し絵本」として皆様  
に還元する取り組みもされて  
いました。

辻先生は子どもたちへの願  
いとして「自分を大事にして  
もらいたい」と仰います。それ  
は決して「自分を優先する」と



先代の想いが皆の事をいつまでも  
優しく見守って下さっています。

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤグループの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

# CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。



狙いを定めて「鬼は～外～」穩やかに始まったはずが...



ついに鬼も反撃開始です。大量の豆を片手に本気全開!

今年の豆まきも、鬼は絶賛後厄中のカグヤ当主。昨年は大量の豆を盛大に投げまくったので掃除が大変でした。今年は社内の一角だけでやることに...。鬼の睨みのきいたオーラに、皆恐れをなして豆まきも遠慮さき。これ幸いと、鬼は豆をスイスイかわし得意顔です。その涼しげな表情に触発され、ひとりの

## 恒例行事

クルーが手のひらいっぱい豆を思い切り鬼に投げつけると、そこから鬼の反撃が始まりました。瞬く間に社内全域での投げ合いが始まったのです。逃げるクルー、投げる鬼。普通は鬼が反撃してくる豆まきなんてあり得ませんが、カグヤでは鬼さえ参加姿勢。そして例え年中行事だろと全力投球！結果、最後はやっぱ大掃除となりました。毎年恒例行事。何か特別なことをするわけはありませんが、変わらざる集い笑いあえること自体がとて特別なことに感じます。こうした日本の伝統行事が教えてくれる心豊かな想いを、ずっと大切にしていきたいと思えます。



いつもと違うメンバーとの一円対話にワクワクも増増!



一円対話の後の会議では、自然と心もオープンになって話し合いも有意義なものに。

仲間を知ることで 社内では、皆で丸くなり一人ひとりの話を聴き合っていく「一円対話」を週に三回ほど行っています。 先日、そんな円対話をウェブセンターの方々と初めて行う機会がありました。普段「WEB」の仕事と一緒に取り組んではいるものの、事務所が別で頻繁に顔を合わせることもないので、いざ一円対話で話を聞いてみると、知らないことを聴かせてもらったり意外な一面を発見できたりと、大変楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

一緒に働く仲間がどんな個性や価値観を持っているのか、どんな背景があるのかなど、知らなくても仕事を進めることはできるものですが、そんなことを聴き合えることでお互いの理解も深まったり寄り添いに繋がったりして、より円滑に楽しく、おもいやりを大事にしながら協力して働くことがしやすくなると感じます。 そして私たちは子どもに関わる仕事をさせて頂いていることもあり、少しでも子どもたちのモデルとなる働き方ができたらと思うと、仲間とはやっぱり同じ方向に向かって、お互いの持ち味を活かし合ったり、助け合ったりする働き方を実現したいもの。だからこそ、このような一円対話などの機会を通して、もっと一緒に働く仲間のことを知っていきたくと改めて感じています。

## 感謝に笑いを添えて

カグヤの場合は男性陣よりも女性陣の方がワクワクしているといっても過言ではない(?)。バレンタインデーが今年もやってきました！毎年、お世話になっているクルーやパートナーさんへ感謝の気持ちを込め、喜んでもらおうとアイデアを練るわけですが、結局その場のノリでどんどん形を変え、チョコレートよりもメッセージカードの方が手の込んだものになるといっておまけつき。今年も同様で、男性陣の失笑にすら達成感を覚える女性陣♪世間では義理チョコ



メッセージカードを見て失笑する男性陣♪



感謝を伝える文化は大切にしていきたいものです。

## 一期一会庵

「成長する環境」

先日、ある私立高校のクラスの円対話を見学する機会がありました。このクラスは試験的に2年前から一円対話に取り組みはじめて、進行役の聴福人を育成するのを見守ってきたクラスです。今回は2年生と1年生のクラスと合同で一円対話をし、その聴福人は2年生が務めることになっていました。聴福人をしてくれたK君は、その表情や雰囲気がとても和らからで明らかに2年前の姿とは別人のようでした。また参加していた2年生たちの様子も周りが安心できるようにその場の雰囲気や表情を皆で一緒に創っていました。その表情や雰囲気もまた、自信に満ち溢れ自分たちが取り組んできたことを誇りに思っていてくれるようでした。その証拠に1年生へのアドバイスがとても素晴らしく、私たちがいつもお客様に語っているようなことと同様に伝えてくれました。

一人ひとりの生徒が一円対話で初心を振り返り、目的を忘れないで取り組んできたことが自信につながったようにも思います。もちろん先生も生徒と一緒に生徒を丸ごと信じて、自分たちの思い込みを捨て生徒の主体性を発揮できる環境を見守ってくださっていたのも真実です。どんな人もどんな子どもも成長すると信じることや、必ず成長したいと思っていると認め関わることで「成長する環境」が醸成されていくように私は思います。 自らがまずは前向きに人間を信じることで、この当たり前の前提こそが成長する仕合せを分かち合つて味わっていくことかもしれない。引き続き、見守る実践を積み重ねながら子どもたちが安心して育っていく環境になれるよう私たちも皆様と一緒に精進していきたいと思えます。

## 編集後記

今月もご覧頂きありがとうございました。卒業式や入園式の季節がやってきましたね。出会いと別れは人々の人生を彩る大切な節目。皆様どうぞお体ご自愛くださいませ。

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビルディング2号館10階 tel.03-5909-7155 fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17 東京堂神保町第3ビルディング8階 tel.03-3518-6217 fax.03-3518-6218

フリーダイヤル 0120-917-389 URL: http://www.caguya.co.jp E-mail: support@caguya.co.jp 受付時間 月～金 9:00～18:00 (土・日曜祝祭日を除く)